

博士論文要旨

論文題名：現代韓国の製靴産業

－釜山地域を中心に産業集積の視点から－

立命館大学大学院経営学研究科

企業経営専攻博士課程後期課程

カン サンミン

姜 尚民

本研究は、韓国の製靴産業を中心に実証的分析を通じ、産業集積の実態および内実を明らかにすることが目的である。製靴産業は輸出産業として釜山地域の経済を支えてきたが、急変する経営環境に対応できず、現時点では斜陽産業と位置付けられている。しかしながら、製靴産業では、劣悪な環境に置かれているにもかかわらず、集積は存続し、成長を見せる企業も生まれている。

本論文では、集積相対視論の視座から製靴産業を考察する。その理由は、次の2つにまとめられる。第一に、産業集積を考察する際に、産業集積の存立形態の違いや、経営・経済環境の違いがあっても、集積内では集積の経済性が共有でき、その違いは政策的支援によって克服が可能であるという誤りを防ぐ必要がある。第二に、製靴産業は集積の縮小を経験した上、そこから新たな動きが見られている。既存の技術集約的な機械、金属、自動車などの産業では、製靴産業と類似した展開がみられないため、製靴産業の研究は一定の意義がある。

そして、本論文では、次の4つのアプローチに重点を置いている。第一に、朝鮮戦争後から現在に至るまで、産業集積のダイナミズムを明らかにするために、時系列的観点を視野に入れて、製靴産業および製靴メーカーのあり方を考察する。第二は、集積の縮小により、産業構造がどのように変化したかを、統計資料の分析を通じて明らかにする。その際、集積の縮小が従来の製靴産業と比べて、どのように変容し、その機能はどういったものであるのかに注目する。第三に、製靴産業では、不足な経営資源をネットワークから獲得し、自立的な事業展開に積極的である。その際、製靴メーカーの企業類型化を行い、類型別に製靴メーカーのあり方やネットワーク構造を明らかにする。最後は、ネットワークにおいて協力的関係が及びコーディネート機能が産業集積の持続メカニズムにどのような影響を与えるのかといった点に焦点を当てる。

製靴産業では、構造調整を経て新たな事業者が生まれると同時に、長期取引関係のなかで協力的ネットワークを構築し、知識共有、需要媒介、イノベーション促進、継続的創業などが活発に行われている。さらに、製靴産業では、ニッチ市場の開拓、産学官連携など、より広い視点から製靴産業を捉えた。製靴産業は新たな転換を迎えており、斜陽産業として製靴産業を位置づけ直す作業が必要である。